

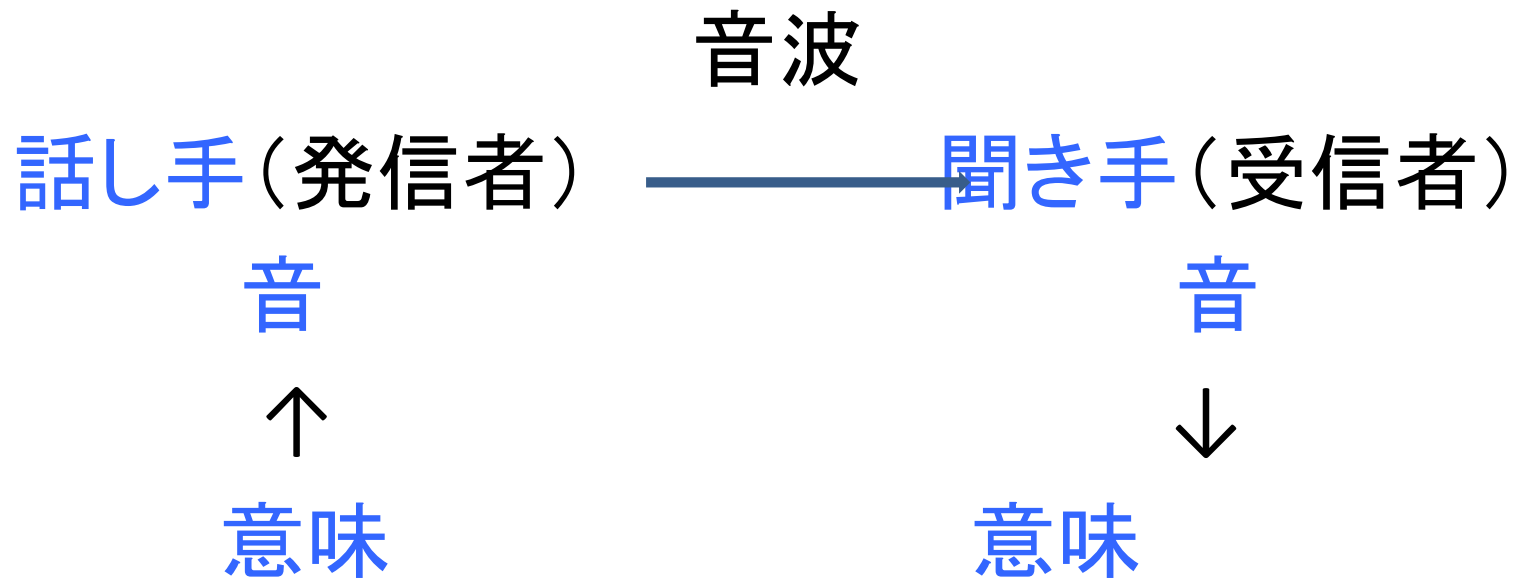
ことばはなぜ難しいのか

名古屋大学大学院文学研究科

町田 健

ことばとは何か

ことば(言語): 音または文字によって意味を伝達する手段



意味とは何か

文の意味：事柄（事態）

太郎が花子を見た。

花子が太郎に見られた。

関係

太郎  花子

事柄の基本は、2つの事物の間にある関係

母音

	前舌	中舌	奥舌
狭	i y	ɪ ʏ	ɯ ʊ
半狭	ɛ ø	ə ɐ	ɔ
半広	e œ	ɜ ɞ	ʌ ɔ
広	æ	a ɶ	ɑ ɒ

子音

		両唇音		唇歯音	歯音, 歯茎音, 後部歯茎音	それ舌音	硬口蓋歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音	両唇硬口蓋音	両唇軟口蓋音	咽頭音	声門音
肺臓 氣流	鼻音	m		ɱ	n	ɳ	ɲ		ŋ	N				
	破裂音	p b			t d	ʈ ɖ	c ɟ		k ɡ	q ɢ		ᵿᵿ ᵿᵿ		ʔ
	摩擦音	ɸ β	f v	θ ð / s z	ɬ ɮ	ʃ ʒ	ç ʝ	x ɣ	χ ʁ			ɱ	ħ ʕ	h ɦ
	接近音				ɹ		j		ɥ		ɥ	w		
	側面摩擦音				ɬ ɮ									
	側面接近音				ɭ		ʎ	ʟ						
	震音	B			r					ʀ				
	弾き音				ɾ					ʀ				
肺臓	放出音	p'			t'	k'								
	入破音	b			d	ɡ								
以氣 外流	吸着音	ɸ			ɬ ʈ									
	側面吸着音				ɮ ɖ									

音素

個別言語は、一部の音声を選んで使っている。
しかも、すべての音声が意味の区別に関与するわけではない。

[p]と[p^h]は意味の区別に関係しない

→同じ音素 /p/に属する。

[a][e][ɑ][ɒ][ə][ʌ][æ][ɔ]はすべて同じ音だと認識される

→同じ音素/a/に属する。

意味の区別に関与しない音声の集合体＝音素

主語とは何か

主語：文の述語を決める単語（名詞）

太郎 — ~~関係~~ → 花子

「太郎」が主語 → 述語は「見る」

「花子」が主語 → 述語は「見られる」

単語の意味

文は単語を並べて作られる。

文の意味が事柄なら、単語の意味は**事柄の部分としての要素**。

事柄を構成する要素：**事物と関係**

事物：「太郎」「花子」「山」「川」など。

「山」や「川」：事物の集合を表す。

関係：「見る」「食べる」「走る」「変わる」など。

単語の意味が分かるとは？

単語の意味を知っている

＝単語が指し示す事物が分かる

「ネコ」はどれ？ Âne はどれ？



ネコ



âne

単語の意味を作る情報

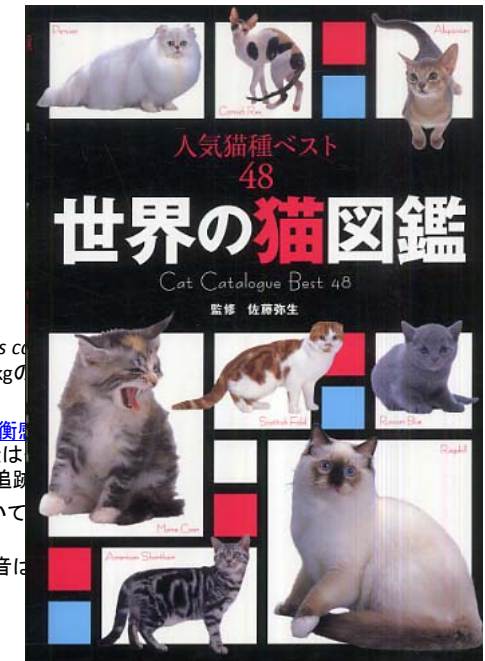
ネコ

- ・十分な数のネコの画像や動画
- ・ネコに関する一般的知識

ネコ(猫)とは、狭義にはネコ目(食肉目)-ネコ亜目-ネコ科-ネコ亜科-ネコ属に分類される小型哺乳類であるイエネコ(学名: *Felis silvestris catus*)が代表的なペットとして世界中で広く飼われている。体の大きさは現生するネコ科の他のほとんどの動物に比べて小さく、体重は2.5 - 7.5kgの体長(頭胴長)75cm(比較資料:「長さの比較」、尾長40cm、肩高35cmに達する。

樹上生の傾向が強く、また、待ち伏せ型捕食者の典型であるネコの特性は、様々な身体的特徴として見ることができる。非常に優れた平衡感覚と武器である鋭い鉤爪(かぎづめ)や牙を持ち、足音が非常に小さく、体臭が少ないことも挙げられる。また、爪を自由に出し入れできることは他のネコ科動物に共通する特徴である。爪は何時も研いで鋭くする。長く追うことで疲弊させる、あるいは、組織的な罠によって追い詰める追跡術(eye) (眼窩下部から口先もしくは鼻先までの部位)が突出していない丸い頭部を持ち、正対視するのに有利な前面に眼窩(がんか)が開いて眼による感情表現が豊かであることも意味し、これがヒトがネコに対して抱く親近感の理由ではないかとも考えられている。

他のネコ科動物にも見られる「ゴロゴロ(purr)」と喉(のど)を振動させる音のメカニズムには複数の説があり、はっきりとしていない。この音は「#喉鳴らし」。「ウィキペディア」より



1つだけの単語の意味にも膨大な情報が含まれる。

単語のしくみ

単語：意味と音の結合

kawa ← 音の列

<川> ← 意味

意味と音の間には何の関係もない。

だから、世界の言語はそれぞれ違っている。

語順

文を作っている単語は、必ず一定の順番で並んでいる
＝語順の決まり

どんな言語にも語順の決まりはある。

- ・英語、中国語：語順で主語と目的語を区別する。

Tom saw Mary. 主語＋動詞＋目的語

- ・日本語、モンゴル語：単語で主語や目的語などを表す。

○太郎が花子を次郎に紹介した。

×がにを太郎紹介した次郎花子。

↑

誰と誰の間に「紹介する」という関係があるのか分からない。

世界の言語

- 世界で使われる言語は七千ほど。
- 人類の起源が一つなら、言語の起源も一つ。
- 起源が同じであることが、学問的に証明できる諸言語＝語族

インド・ヨーロッパ語族、ウラル語族、ドラビダ語族、セム語族、オーストロネシア語族など

いろいろな語族

- インド・ヨーロッパ語族
- アフロ・アジア(セム・ハム)語族: エジプト語、ベルベル諸語、チャド諸語、アラビア語、エチオピア語
- フィン・ウゴル語族: フィンランド語、ハンガリー語、エストニア語、ラップ語
- チュルク語族: トルコ語、アゼルバイジャン語、タタール語、チュバシ語
- モンゴル語族: モンゴル語(ハルハ語)、チャハル語、オルドス語、ブリヤート語
- ツングース語族: 満州語、ソロン語、エベンキ語、ウデヘ語、オロチ語
- シナ・チベット語族: 中国語、タイ語、ラオス語、チベット語、ビルマ語
- オーストロ・アジア語族: ベトナム語、カンボジア語(クメール語)、モン語
- オーストロネシア語族: マレー語、インドネシア語、タガログ語、台湾先住民諸語、フィジー語、サモア語、トラック語、ハワイ語、マオリ語、タヒチ語
- ドラビダ語族: タミル語、マラヤーラム語、カンナダ語、テルグ語
- ニジェール・コルドファン語族: メンデ語、フラ語、ウォロフ語、ドゴン語、ヨルバ語、
- ナイル・サハラ語族: ソンガイ語、マバ語(チャド)、フル語(スーダン)、クナマ語(エチオピア)
- コイサン語族: ブッシュマン諸語、ホッテントット諸語(アフリカ南部)
- エスキモー・アレウト語族: エスキモー語、アレウト語
- ナデネ大語族: トリンギット語、ナバホ語、アパッチ語、ヒカリヤ語

インド・ヨーロッパ語族

- **インド語派**: ベーダ語、サンスクリット語、ヒンディー語(インド)、ウルドゥー語(パキスタン)、マラーティー語、ベンガル語、パハール語、シンハラ語(スリランカ)、ロマ語(ジプシー)
- **イラン語派**: アベスタ語、古代ペルシア語、パフラビー語(中期ペルシア語)、パルティア語、ソグド語、サカ語、コレズム語、ペルシア語、パシュトー語、バルーチー語、オセッ語(カフカス)、クルド語
- **ギリシア語派**: 線文字B(クレタ島)、アッティカ方言、ドーリス方言、アルカディア方言、コイネー
- **イタリック語派**: ラテン・ファリスク語群、オスク・ウンブリア語群、ベネト語(ポー川北部)
- ラテン語→ロマンス諸語(イタリア語、サルジニア語、スペイン語、ポルトガル語、ガリシア語、カタロニア語、フランス語、ルーマニア語、レト・ロマン語、ダルマチア語)
- **ケルト語派**: アイルランド語、ウェールズ語、ブルトン語
- **ゲルマン語派**: ゴート語、北ゲルマン語(アイスランド語、スウェーデン語、ノルウェー語、デンマーク語)、西ゲルマン語(英語、ドイツ語、オランダ語、フリジア語)
- **スラブ語派**: 南スラブ語(古代教会スラブ語(古ブルガリア語)、セルビア・クロアチア語、スロベニア語、マケドニア語)、西スラブ語(ポーランド語、チェコ語、スロバキア語、ソルブ語)、東スラブ語(ロシア語、ウクライナ語、ベラルーシ語)
- **バルト語派**: リトアニア語、ラトビア語、古プロシア語
- **アルメニア語派**
- **アルバニア語派**
- **トカラ語派**
- **ヒッタイト語派**: ヒッタイト語、パラー語、ルウィー語、リュディア語、リュキア語、フリュギア語

語族の認定

「父」「3」「イヌ」「知る」「ある」

古代インド語	ギリシア語	ラテン語	ドイツ語	英語
pitar	pate:r	pater	Vater	father
trayah	treis	tres	drei	three
s'va	kuo:n	canis	Hund	hound
janami	gignosko:	gnosco	kennen	know
asti	esti	est	ist	is

同系の証明

同系＝同一の語族に属していること

複数の言語が同系であることを証明するのは、
現在のところ規則的な「音韻対応」のみ。

Skr.	Gr.	Lat.	Goth.	Eng.
------	-----	------	-------	------

p	p	p	f	f
---	---	---	---	---

t	t	t	th	th
---	---	---	----	----

日本語は何語族？

日本語は、どの語族に属するか分らない。

日本語の単語と、意味と語形が似た単語をもつ言語は知られていない。

南方起源説、北方起源説、混合言語説

アイヌ語、朝鮮・韓国語、バスク語も語族不明の言語

でも日本語は仲間が多い

- **膠着語**：単語の後ろに、文法的な働きを表す単語をいくつも並べることができる。

話す＋かける＋られる＋た＋らしい＋ね
＝話しかけられたらしいね

- 朝鮮・韓国語、満州語、トルコ語、ツングース語、スワヒリ語、チベット語

膠着語としての日本語

◆1つの意味・働きに1つの単語という原則

「食べられかけたらしかったよね」

食べ-られ-かけ-た-らしかっ-た-よ-ね。

動詞-受け身-開始-過去-推量-過去-伝達-確認

◆1つの単語がいくつもの意味を表す言語もある

ラテン語 leges:

leg=読む、e:直説法・未来・能動、s:2人称・単数

日本語以外の諸言語の分類

- **孤立語**: 文法的な働きを表す単語はあまり使用しない。

主語と目的語は語順で区別する。

中国語、タイ語、ベトナム語

- **屈折語**: 名詞や動詞が活用し、活用形によって文法的な働きが表される。

古典ギリシア語、ラテン語、サンスクリット語、ロシア語、チェコ語

屈折語の例

ラテン語

Julia Paulo amator.

ユリアはパウルスに愛されている。

Marcus vinum biberit.

マルクスは酒を飲んでしまっているだろう。

Gaius senator sentetiam proclamavit.

ガイウスは元老院議員として判決を宣告した。

どうして7千もの言語があるのか

言語は、話し手から聞き手へと同じ意味を伝達するために使われる。

→すべての人間が同じ言語を使う方がいい。

ところが、言語は年齢、性別、教育、階級などの要素によって「変異」をもつ。

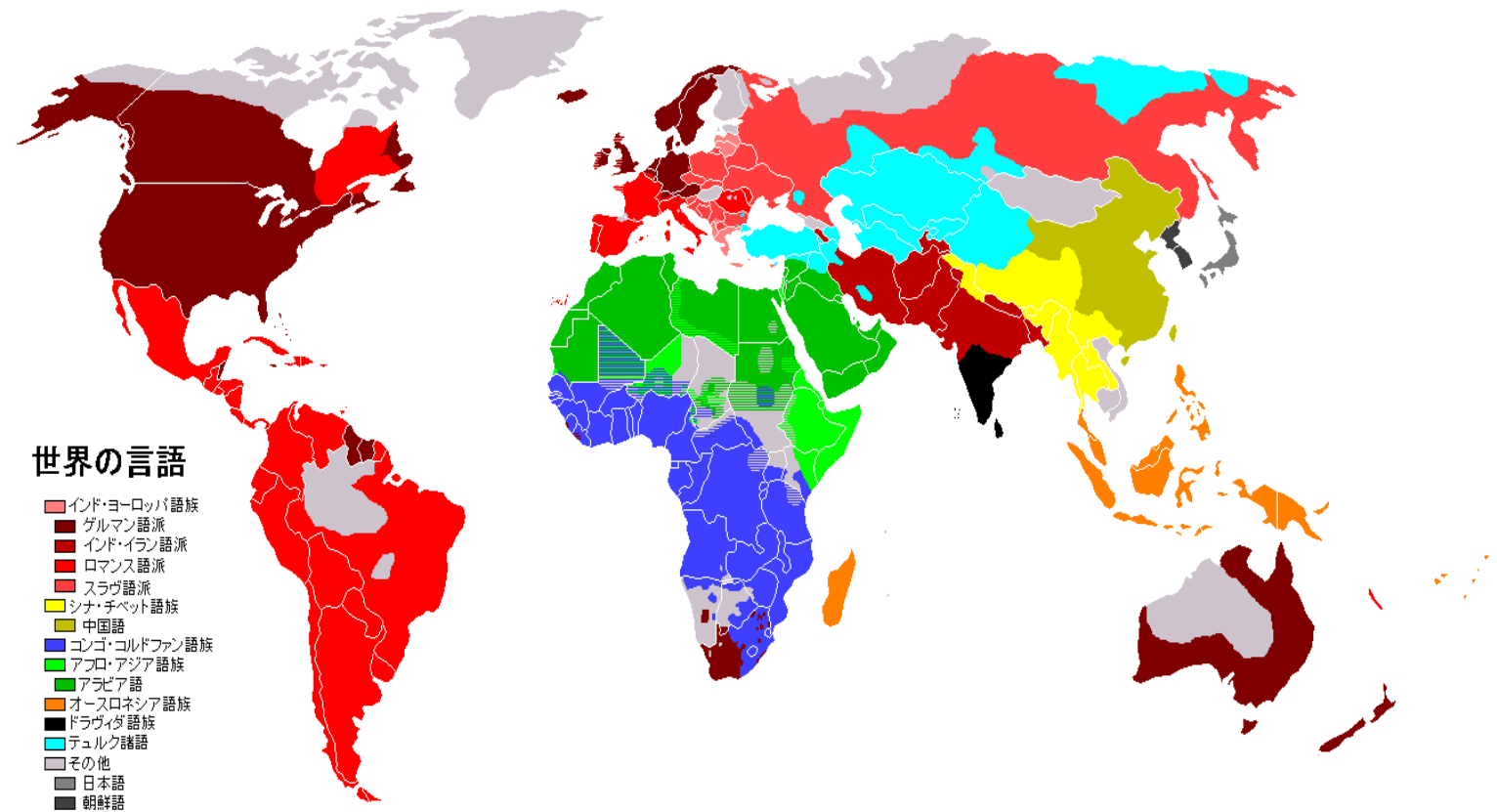
言語の変異→言語の変化

言語の変化→言語の分化

言語分化の様態



言語の分布



文法から見た日本語の特徴

- ・時制：現在形と未来形の区別がない

太郎は家にいる→現在、太郎は家に来る→未来

- ・冠詞がない

車はもっていない＝I don't have a car.

車はもう洗った＝I have washed the car.

- ・関係代名詞がない

私の会社に来た男＝the man who came to my office

私が招待した女＝the woman whom I invited

- ・主題がある

ネコは動物だ。

ネコは眠っているのでそっとしておこう。

日本語の時制

時制＝現在、過去、未来を動詞の活用で表す
しくみ

日本語の時制は「過去形」と「現在形（非過去形）」だけ

あった：ある、行った：行く、見た：見る

未来形がなくてもいいのか

動詞の種類で、現在と未来を区別する

状態動詞:「いる」「ある」「見える」「泳げる」

太郎は家にいる。＜現在＞

花子は上手に泳げる。＜現在＞

動作動詞:「来る」「着く」「生まれる」「回る」

バスは3時に着く。＜未来＞

子供は9月に生まれる。＜未来＞

冠詞がないとどうなるか？

冠詞：名詞が表すモノを、相手が特定できるかどうかを区別するための単語。

冠詞がないと、文脈や状況から特定かどうかを判断する必要がある。

- ・ 鳥が鳴いている。「鳥」は何でもいい。

A bird is singing.

- ・ 黒板に答えを書きなさい。「黒板」は教室に一つしかないし、問題の答えも1つだけ。

Write the answer on the blackboard.

日本語には主題がある

★主題と主語は違う

太郎が来た。(太郎＝主語)

太郎は来た。(太郎＝主題＋主語)

太郎は花子を見た。(花子＝目的語)

花子は太郎を見た。(花子＝主題＋目的語)

★「は」と「が」で意味が違う

花子が美しい。(美しいのは花子だけ)

花子は美しい。(他の人のことは問題ではない)

知識を重視する日本語

話し手が直接知ることができる事柄と、間接的にしか知ることができない事柄を区別する。

- ○私は悲しい。
- ×花子は悲しい。○花子は悲しそうだ。
- ○私はそう思う。
- ×花子はそう思う。○花子はそう思っている。

聞き手が知っているかどうかを、「ね」「よ」で区別する

- ・（道で知り合いに会って）
- 今日はいいい天気ですね。
×今日はいいい天気ですよ。

敬語も主題も知識が大事

- 敬語(尊敬語、謙譲語、丁寧語)がある。

誰かと会話をするためには、前もって自分と相手がどのような社会的関係にあるのかを正しく判断しておかなければならない。

▪ 主題

状況に含まれている事物と関係している事物や事柄を正しく予測しなければならない。

『草枕』を読んだ。漱石は漢籍の素養がある。

状況を考慮しての理解

文字通りではない意味を表す文

「明日一緒に映画に行きませんか」

「ちょっと明日は用事があるので...」

→明日は一緒に映画に行けません。

（授業中にスマホをいじっている生徒に）

「君は何をしているんだ」

→君のしていることはいけないことだ。

文字通りではない意味の理解

A 「明日一緒に映画に行きませんか」

B 「明日はちょっと用事があるので...」

1. 「行くか行かないか」を尋ねているのだから、それに対しては「行く」または「行かない」のどちらかで返事しなければならない。
2. だからBの発言は、Aの勧誘とは無関係の内容。
3. それでも、Bは何らかの適切な意味を伝えたいと思っているはず。
4. その適切な意味を推論しなければならない。
5. <知識>ある日に用事があれば、それ以外のことをすることはできない。
6. 映画に行くことは、明日の用事とは異なる。
7. <推論の結果>したがって、明日は映画に行けない。

言語能力は極めて高度

<文を作る>

事物、事物と事物の間の関係を認識する

→事態

事態が成立する時間、成立の可能性を判断

事物、事物の事態中での働き、関係、時間、可能性を表す単語の選択（必要な場合には、自分と聞き手との関係を考慮して選択する）

語順の決まりに従って、単語を並べる

→文

言語能力は極めて高度

＜文を理解する＞

聞いた音声から音素を認定する

音素の並びを単語に対応させる

単語の意味を組み合わせで事態を作る

事態が先行する文脈・状況と無関係

→状況と知識をもとに適切な事態を推論する

英語とはどんな言語なのか

- 系統的にはインド・ヨーロッパ語族だが、典型的には孤立語に近い。
- 母音も子音も日本語より多く、単語の中ではアクセントのある母音以外は曖昧に発音される傾向。Impossibility, unbelievable
→日本人には発音が難しい。
- 不規則動詞や不規則名詞(mouseとmice, childとchildren)が多い。

英語の不思議なところ(1)

- ・疑問文と否定文にはなぜかdoが出てくる。

John fell in love with her.

→Did John fall in love with her?

John didn't fall in love with her.

- ・不定冠詞の複数形がない。

I saw the girls.

There are girls in the hall.

フランス語: J'ai vu les filles.

Il y a des filles dans cette salle.

英語の不思議なところ(2)

- 前置詞なのに後ろに名詞がない場合がある。

I see the house she lives **in**.

This is the book I've been looking **for**.

- 事柄の可能性を表す助動詞がやたらに多い。

will, would, can, could, may, might

must , should, ought to

英語の不思議なところ(3)

- ・フランス語からの外来語が多すぎる。
river(川)、mountain(山)、flower(花)、
people(人々)、power(力)、arrive(着く)
beef(牛肉)、pork(豚肉)、mutton(羊肉)
- ・15世紀に大きな発音の変化(大母音推移)を起こした→綴りと発音が一致しない。
name(a:→ei), feel(e:→i), time(i:→ai),
home(ɔ:→ou), fool(o:→u), now(u:→au)

英語は変化の速度が大きい

千年前の英語は、今とずいぶん違う。

On siex dagum wæron geworhte
heofanas and eorðe, sunne and
mona, sæ and fiscas.

(In six days were made heavens and
earth, sun and moon, sea and fishes)

(6日間で、天、地、太陽、月、海、魚が作られた)

八世紀の日本語でも分かる！

父母が頭かきなで幸(さ)くあれて言ひしけとば
ぜわすれかねつる

(『万葉集』卷二十、防人歌)

東(ひむかし)の 野にかぎろひの 立つ見えて
かへり見すれば 月かたぶきぬ

(『万葉集』卷一、柿本人麻呂)

日本語も少しは変わった

- ハ行の音
- 奈良時代以前 pa(パ) pi(ピ) pu(プ) pe(ペ)
po(ホ)
- 奈良時代ー平安時代前期 Φa(ファ) Φi(フィ)
Φu(ふ) Φe(フェ) Φo(フォ)
- 平安時代後期ー現代 ha(ハ) hi(ヒ) Φu(フ)
he(ヘ) ho(ホ)

文法も変わった

- 平安時代

「たり」「つ」「ぬ」=現在完了を表す助動詞

「き」=過去を表す助動詞

現代

現在完了と過去の区別がない。たり＞た

- 「めり」「まじ」「らむ」のような、さまざまな文法的働きをする助動詞が昔の日本語にはあったのが、今ではなくなってしまっている。